



図1 地域がん登録の活動と担い手

教育研修委員会の活動

柴田 亜希子 理事

国立がん研究センターがん対策情報センター
がん統計研究部

教育研修委員会の担当理事をお引き受けするにあたって、一つの成功モデルを参考にしたいと考えました。今回は、その成功モデルをご紹介したいと思います。

NPO法人マンモグラフィ検診精度管理中央委員会(以下「精中委」という)をご存じの方もおられると思います。精中委は、1995年以降、厚生省(現厚生労働省)がん研究助成金研究班で検討されたマンモグラフィ検診の精度管理システムを実践し、課題検討を継続し、その管理運営を行うために、1997年に日本乳癌検診学会において設置された組織です。1999年3月から教育研修委員会、2001年4月から施設画像評価委員会、2005年4月からマンモグラム・レビュー委員会の各々の活動が行われています。2004年に内閣府からNPO法人を取得しました。

教育研修委員会は、医師・技師に対して診断精度を一定に保つための教育研修を目的に、マンモグラフィ講習会を開催しています。この講習会は、精中委主催と、講習会の開催を希望する地域が主催する会(その多くは医師会)に大別されます。講習会開催には、マンモグラフィを診るためのシャカステン(シャカステン)の借料や、講習や読影試験で用いる全国から収集された貴重なマンモグラムの搬送の保険、その他、講師旅費等の経費がかかりますが、それらは受講者から3万円前後受講料を払っていただき賄っています。最低14名の講師が必要で、地方開催の場合、精中委の教育研修委員会から必ず1名は派遣されますが、

その他は当該地域で講師資格を有する人に依頼して招集します。当該地域で十分な講師の数をそろえられない場合、精中委が補てんすることもあります。どうしても講師の数がそろわない場合は、講習会の質を維持するために開催の断念もあり得ます。講習会の内容は、土曜日の朝9時頃から午後7時まで、日曜日の午前9時頃から午後4時頃まで、50分程度の昼食時間以外、すべて聴講、実習、試験で、とてもハードです。その他、講師は、前日の夜の打合せ(午後8時から10時)と終了後反省会(午後4時から5時)も参加します。

精中委の講師の多くはNPO法人の理事ではなく、教育研修委員会の委員として委嘱された方です。また、地方講師の多くは精中委の教育研修委員会の委員ではなく、精中委から講師資格があると認定された人です。講師は謝金をいただきます(人によっては謝金を受けていないこともあり得ます)、金曜日の夜から日曜日の夜遅くまで拘束されるに見合う額ではありません。日曜日の夜には、声が嘎れ、足がパンパンにむくみますが、月曜日から通常業務です。それでも講師には『やらされている』感はなく、当該地域に一人でも多くの優秀なマンモグラフィ読影者が増えることを期待して積極的に参加しています。

NPO法人の設立の経緯が当法人と似ているため、本教育研修委員会にもこのモデルを当てはめられないかと考えました。このモデルの実現には、地域におけるボランティア講師の存在が欠かせません。また、地域がん登録事業は地方自治体事業であり、実務職員の多くは非常勤職員であることから、講習会の土日開催は通常は考えにくいことや、受講料の徴収の可否は現時点では不明です。当面は、このような問題を解決する方法を考えていきたいと存じます。まずは、ボランティア講師の自薦をお待ち申し上げます。